

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272100583		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホーム百葉二の宮		
所在地	静岡県富士宮市北町14-5		
自己評価作成日	平成27年10月1日	評価結果市町村受理日	平成27年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JivgoVoCd=2272100583-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JivgoVoCd=2272100583-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年10月29日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

湖山医療福祉グループの理念「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」を常に意識しお客様、ご家族様の立場になり支援しています。こやまケア＝笑顔の中で生き生きと暮らせるケアを行動方針にのっとり実践しており職員はやさしい声かけと対応ができています。法人内では定期的にこやまケア施設間評価を行っており個別ケアの実践について他施設職員の評価を受けています。また認証取得したISO9001も運用4年目になり、サービスの質向上には積極的に取り組んでおります。若い職員が多くおりますが互いに助け合いながら良いチームワークでお客様にサービスの提供ができています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

採用めやす「一緒に働きたい人」が功奏し「和を以て貴しとなす」が伝統的に根付いている事業所です。朝礼では10あるケア行動指針を2項目毎に取上げて唱和し、テストを加えて自己評価の取組みは、平均年齢31歳という若い職員たちのケアサービスに「声をかける、目を合わせる」相互理解への働きかけを浸透させています。そのため看取りでは実の祖父母を見送るように自然に“死”を受け入れることが叶っています。今年のトピックスとしては系列の医療機関が結成した専門家集団の定期訪問により多様な視点のアドバイスが得られ、硬縮や太り過ぎへの助言が未然に悪化を防ぎ、また職員も貴重な学びを得ることができています。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	湖山医療福祉グループ理念、行動指針・こやまケア行動方針・GH理念「お客様が共に寄り添い生活する」を常に念頭におき業務にあたっている。	朝礼では10項目あるケア行動指針を2項目毎に取り上げて唱和し、会議を通じてテストをおこなっています。さらに自己評価も加え会得を図る仕組みをつくり、実践につなげています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は多くはないが、一の宮区の夏祭りの会場として施設は開放。区からはどんど焼きの招待が毎年ありおもてなしを頂いている。10月の秋祭りや11月の秋宮でも区民の方が多くお越しくださり楽しい時間を過ごすことができた。	踊りの練習の場として駐車場を提供したり、庭の花が届くという日常があります。10周年を記念しての餅投げには三百余の近隣住民が集い、何かにつけ事業所のことを考えてくれる地区長には投げ手をお願いしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	富士宮東高校福祉科の実習を毎年受け入れている。地域向けの勉強会は12月頃に実施予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長、民生委員、市職員、ご家族様代表にご出席いただきご意見をいただいている。	行政と地域、家族とメンバーは揃っていますが、総勢5名とややメンバー数は少ない状況にあります。そのため話材が膨らまないという課題はあるもののISOを基盤とした適切な運用が叶い、特に記録は秀でています。	メンバーとなるとやや重く双方慎重になることもあるため、ゲストという形で積極的にアプローチすることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回、担当の市職員の方にご出席いただき報告とご指導をいただいている。	富士宮市の事業所連絡会における小規模ホーム部会の部会長を管理者が拝命していることから、地域包括支援センターとの情報交換がスムーズです。また地域に向け医師を招いた講演会も近く予定しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で身体拘束はしないことを徹底している。夜間以外は玄関の施錠はしていない。またスピーチロックのないケアを徹底している。	方針への克己、教育研修とやるべきことを粛々と実行するなかで、職員に「拘束なし」が当たり前として定着しています。また最近階下へ単独で向かった利用者の一件から、あらためて「私たちの目配り、気配りが大事」と改めて気持ちを引き締めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議等での研修実施、法人内研修へ参加させている。虐待は絶対にしない、起こさない、みのがさないように指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての資料は事務所に置いてあるが理解は充分ではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書、重要事項説明書の内容を説明しご理解をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人統一でアンケートを実施しており郵送先を自事業所ではなく法人管理部とすることで率直なご意見をいただけるようになっている。結果はご家族様に郵送、掲示している。ご意見箱も設置しており9月に初めて投書があったがお褒めの言葉であった。	運営推進会議への参加者は固定していますが、家族アンケートの回収率も高く、また内容についても評価を得ています。若い職員集団ですが介護技術も確かで謙虚な立居振舞であり、家族の好印象は頷けます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議、職員会議があり職員の意見を聞く機会がある。運営会議には法人内に担当課長が出席し意見やご指導をいただいている。	部署会議は時間外手当も用意され、原則全員参加で執り行われています。採用めやす「一緒に働きたい人」があり、また「和を以て貴しとなす」との意識が根付いているためか、発言は万遍なくあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理、実務評価表、年2回の定期面談があり力量を把握、昇給、賞与査定に反省している。有給の他、ハッピー、リフレッシュなどの特休もあり働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修開催の他、法人内に各種研修があり年度初めに参加計画をたて、業務扱いで参加させている。また研修報告書で有効性を確認している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の小規模ホーム部会に加入し研修、運動会、新年会等で交流を図っている。法人内研修でも他事業所の職員を共に学ぶ機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	聞き取りが困難な場合もあり要望等を聞き出すことが難しいときもあるが入居後の観察により安心できる生活を送れるよう対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必ず見学を勧めご家族様の想いや要望を聞き出し関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の現状を把握。判定会を開催し最も入居が必要となるかたにご入居いただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レベルの低下から家事をすることが難しい方も多いが、できることは行っていたり日々穏やかな時間を職員と共に過ごしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	都合によりあまり面会のない方もいらっしゃる。家族会を開催し職員、ご家族様同士の関係性作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は時間の制限はしていない。以前のようなご友人等の面会はないため個別外出で馴染みの場所などに出かけ楽しい時間を過ごしていただけるよう企画をした。	終日自室で新聞に目を通す人の“思い”か、はたまた転倒を未然に防ぐかについて、センサーマット導入では職員間で熱い論議があったという事例検討からは、その人の習慣を大切にしている職員の姿勢が視えます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他の方に向い大声をだしたりする方もいるが孤立することのないように配慮している。レクや手伝いなどで関わりあう時間も大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	老健への入居となった方がいたが職員が面会にいきアドバイスを行ったことがあった。ご逝去となられた方のご家族様からの相談はない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉での訴えが少ない方も多。何気ない言葉から願いをくみ取り実現する取り組みをしている。	声をかける、目を合わせるといった相互理解への働きかけができていない職員の姿を確認しました。また心身状態の変化に気がかりなことがあれば24時間シートなどを導入して、経過観察をおこなっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント、ご家族様の聞き取りからGHでの生活に繋げられるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	モニタリングを繰り返すことにより、先入観にとらわれず現状を把握している。また健康状態の把握に常に努めている。お客様の持つ力を大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	お客様の担当職員を決め、常勤職員が全員出席する部署会議内で毎月全てのお客様のカンファレンスを実施しよりよいサービスの提供に繋げている。	現場ではサービス項目チェック表で実践を確実とさせ、ケアマネージャーが最終確認する際には居室担当が日々記録するケアポイント表で検証してと、幾つかのハードルがあることで堅実なケアプランが成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤者が昼間帯、夜勤者が夜間帯の様子や気づき、行動等を細かく記録し、情報の共有をすると共に、朝夕の送り時に報告し日々の介護に活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様やご家族様の要望に応じた柔軟な対応ができるよう意識している。また、併設のデイサービスとの連携により、慰問や季節の行事などを楽しんでいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元二の宮区が祭り時に来てくださりお客様が大変喜ばれている。地域のボランティア・幼稚園・趣味の団体等、施設外の方との交流があり、その支えの中で、生活できていると考え感謝している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時は訪問看護師や併設のデイサービス看護師に相談している。また、月に2度、主治医がチームで往診にきており管理栄養士、OT、薬剤師など専門職からの指導もありお客様の健康を支援している。	系列の医療機関が結成した専門家集団が2週に1回訪問しています。硬縮や太り過ぎなどへ多様な角度からの助言が得られ、未然に病気や入院を防ぐことになり、また職員も貴重な学習の機会となっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状況の変化に留意し、必要に応じ訪問看護師や併設のデイサービス看護師に確認している。また、週に一度訪問看護師の訪問があり、全利用者の状況把握とアドバイスなどを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は出来る限り職員が見舞い、退院後スムーズに元の生活に戻るよう支援している。退院時は職員が対応している。飲み込みの悪い方が入院された際はできる限り職員が食事介助にいき早期退院できるよう支援した。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応では、知識・判断力が問われるため不安や負担を感じる職員もおり勉強会を実施した。主治医と連携を取り数年ぶりに看取りを行った。	ここ2年の実績は1例ですが、その折のご縁で協力医以外で近所の医院と連携できたという財産を得ています。平均年齢31歳の若い職員ですが、実の祖父母を見送るように自然に“死”を受け入れることができおり、事業所でも祈りのカンファを開いています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアル、離設マニュアルを改訂した。ノロ(嘔吐・下痢時)の処理は繰り返し研修を行っており常勤職員全員が同じ手順でできる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年に数回行っており通報訓練や発電機の始動、炊き出し訓練などいろいろな場面を想定し行っている。近隣にも参加を呼びかけたが参加者はなかった。	ほぼ毎月何がしかの訓練があり、年1回は消防署職員の立ち合いもお願いしています。釜でご飯を炊きカレーを作ったり、各種機器チェック、発電機の試運転と多岐にわたる取り組みについて書面で視認しました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	こやまケア行動方針に伴う対応を心がけ、不適切な対応がないようにしており職員は優しい声かけと対応ができています。	「独りで静かに過ごすのが好きな人の様子を折々に確認したいがどうしたらじゃませずにできるか」と検討し、少し長めの暖簾をかけるに至ったとのエピソードからは、こやまケアの浸透が受けとめられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思が表出し易いようお客様との良い関係を保つ努力をしている。自己決定が出来るように、選択し易いような言葉がけに配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは概ね決まっており、その中でも本人の状態を考慮し一人ひとりのペースを守っていけるよう支援している。介護度の高いお客様も多く、時に都合が優先されてしまうこともあるが無理強いは決して行っていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で選ぶことが難しい方には職員がその人らしさと大切にコーディネートしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は毎食、職員と共に食卓を囲んでいる。できる方は少人数だが食器拭き等、お話をしながら一緒に楽しみながら行っている。季節に応じた行事食や外食などでは、お好きなものを選んでいただいている。	夏には流しソーメン、またピザのTVCMを見て注文したり併設デイサービスと合同でBBQと、食事イベントがたくさんあります。食事介助が必要というだけでなく、会話も提供しつつ職員もテーブルを囲んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下等の状態に合わせたバランスの良い食事を提供し、摂取状況を記録している。水分量もチェックを行い、毎日のゼリーを含め一日を通じて必要量が摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは職員介助または見守りの中行っている。また週一回歯科衛生士の訪問、月一回の歯科医師の受診を受け、口腔状態の維持向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全介助の方1名はおむつを使用しているが清潔の保持に努めている。排泄パターンを把握し適宜誘導することで、失敗のない排泄に向けた支援を行っている。	90歳を越えてなお布パンツ、さらに夜間自ら起きてトイレを使う利用者にはプランに「布パンツを維持する」と明記し、「100歳になってもできたらいいね」と言い合っていて、「自立」を大切に支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食品や水分摂取に心がけ、毎日の体操など活動的に過ごしていただくことで自然排便を促しているが便秘がちの方は多い。また、食後の自家製ヨーグルトは好評であり、できるだけ薬に頼らない排便を目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ほぼ1日おきに入浴をしていただいている。ご希望があれば毎日入浴もできる。午前に入浴することでその後を快適に過ごせる方もあるので対応している。お一人ずつ好みの温度で入浴していただいている。	「一人ずつ、ゆっくり」を意識しているため、午前中からはじめてその人のタイミングで入り、出してもらうようにしています。また一般浴のため、身体上辛くなった場合は階下のデイサービスの浴槽を借りることもできます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はソファでほぼ横になり休んでいる方もいるがその方にとって過ごしやすい場所になっている。一人ひとりの生活パターンにあわせ就寝の支援をしている。お部屋で読書をされてから休まれる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れや間違い等ないようにWチェックを行い服用していただいている。服薬の事故が起きた際はマニュアルを見直し再発を防止している。血圧の変動のある方には細目にバイタルをはかっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの持っている力が発揮できるよう、仲間作りなどに配慮し、生活にメリハリを持っていただきたいと考えるが全体的に加齢のため意欲・活動性が低下している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食や催し物への参加、季節を見つけにドライブなど、対応している。9月は久しぶりに遠出をした。個別外出も実施し喜んでいただけた。ご家族さまとの外出はあまり多くなく決まった数名のお客様だけになっている。	年間計画に位置付け、およそ四半期に1度大きな外出をおこなっています。ほかにもリクエストに応じた個別外出も計画に盛り込み、また大勢での外出に同行できなかった利用者には近場でのお出かけで代替する配慮を進めています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で預かる形をとりながら、買物や外出時などに支払いが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の希望はないが、お手紙が届くケースも多く、お返事を書くお手伝いをさせていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面にはお客様の写真などを飾り、清潔で居心地の良い空間となるよう努めている。温度や湿度も定時で確認している。窓が少なく風が入りにくい造りになっているが換気には留意している。	敬老会でのハナガミガーランドやお祝いの貼紙、外出先での思い出写真と、日頃の安寧が伝わる掲示がみられます。食事スペースのほかにソファとテレビがある十分な寛ぎスペースがあり、それぞれが居場所を持っています。	開設から10年を経て諸所痛みもみられます。すぐには無理でも、小分けするなどして中長期での修繕を期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には、ベンチやソファが設置されている。お一人、あるいは気の合うお仲間と、思い思いにお好きなように過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、ご家族様に使い慣れた馴染みの家具の持込を依頼している。御仏壇やご家族の写真や趣味の作品などを配置し、その人らしい空間の提供を心がけている。	洗面所が配されていることからどの部屋にも椅子があり、またカーテンは日差し除けの2枚というのが特徴的です。テーブルの上に糊や折り紙が並び壁一面に色鮮やかな貼り絵が連なる、趣味一杯の居室もありました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の2階であり外にでにくい状況がある。フロアは広いのでホール歩行や運動ができる。居室で過ごすことがお好きな方の転倒が数回発生したがその都度職員で話し合いもっている。		